

## 提 言

## 哺乳類の高次分類群および分類階級の日本語名称の提案について

日本哺乳類学会種名・標本検討委員会 目名問題検討作業部会 (部会長: 横畑泰志)

## 摘 要

これまで批判の多かった「文部省式カタカナ目名」の問題に対処し、同時に最近新たに提唱されている哺乳類の高次分類群および分類階級の国内での使用上の混乱を防ぐ目的で、それらに推奨できる日本語名称を提案する。検討対象として McKenna and Bell (1997) の分類体系を用い、和訳にあたってはラテン語学名の本来の意味を尊重することなどを原則とした。

## はじめに

哺乳綱 (Class MAMMALIA) の高次分類群 (ここでは科, 上科などの科階級群より上位の分類群とする) の分類体系は, すべての哺乳類研究者にとって重要な情報である。現在用いられている体系は一つではないが, Simpson (1945) の体系に基づくところが大きく, それ以後現存目については登木目 (登攀目, ツパイ目, Order Scandentia) とハネジネズミ目 (Order Macroscelidea) の2目, またはそれらと鱗脚目 (アザラシ目, Order Pinnipedia) の3目が新たに加わったのみである。哺乳綱においても化石資料の増加や細胞・分子遺伝学的手法の導入, 分岐分類学の発展などによって分類体系の再編や階級の変更, 新分類群の提案が現在でも行われており (Novacek, 1992; 遠藤, 2002), 例えば McKenna and Bell (1997) は分岐分類法に基づいてこの綱全体の大幅な高次分類群の改変を提示して, 日本国内の専門家にも注目されている (横畑, 2001, 2003; 富田, 2003)。用語の統一など適切な措置がはかられてゆきさえすれば, これらは哺乳類のよりよい分類体系の構築や系統の理解にとって有益なものであり, いたずらに関係者を混乱させることはないであろう。

しかしながら, 文部省 (1988) において, 動物界の主要な目階級群の和名にその群の代表的とみられた動物名をあてる, いわゆる「文部省式カタカナ目名」が作成公表されたことには, 従来との間で混乱を生むなど

の多くの問題点が指摘され, 哺乳類関係者を中心に批判が繰り返されてきた (青木, 1994, 2003; 金子, 1998; 大泰司, 2000; 田隅, 2000; 横畑, 2001; 伊東, 2003)。日本哺乳類学会2000年度大会ではこの問題に関する自由集會が開催され (横畑, 2000), これらがきっかけとなって本学会種名・標本検討委員会に目名問題検討作業部会が設けられ, 対応がはかれることとなった。2002年度大会では公開シンポジウム「哺乳類の目と目名」が開催され (横畑, 2003), 作業部会員を中心に5名による講演が行われて, 会員全体にこの問題に対する関心が広がった。これらの集會や作業部会内での検討によって, 作業部会から学会員に, さらに国内の多くの生物研究者に推奨できる哺乳類の高次分類群の名称を提示することが, この問題への対応として有益であることが明らかになった。

一方, 上記の新たな分類体系の再編や階級の変更, 新分類群の提案によって, 新たな高次分類群およびその分類階級の日本語名称が必要になっている。今後の国内での用語の混乱を避けるためには, 組織的な対応によるこれらの名称の統一が必要であろう。

そこで当作業部会においては, 新たに提案されてきた多くの分類群と分類階級にいくつかの基本的な考え方に基いて推奨できる日本語名称を選定することになった。検討の対象としてとして, McKenna and Bell (1997) の体系を取り上げた。これは必ずしもこの体系が様々な批判に最もよく堪え得ると評価できるからではなく, 哺乳類の高次分類体系においては最も多くの新たな分類群, 分類階級が表示されており, この体系に含まれる分類群や階級に日本語名称を付与しておけば, 他の体系にもおおむね対応できると考えられるからに他ならない。この体系についてはあまり積極的に肯定しない, あるいは検討するのが時期尚早とする意見も見られることをつけ加えておく (例えば, Colbert *et al.*, 2001; 遠藤・佐々木, 2001)。推奨できる分類階級の日本語名称を表1に, 高次分類群の和名を表2に示す。一部繰り返しになるが, 当作業部会は多くの哺乳類学関係者にこれらの

名称の使用を強制するのではなく、用語の統一と安定のために推奨するものである。

なお、表2において時おり目より上の階級の群の直後に目に所属しない亜目が置かれていたり（例えば、有袋区の直後の古後獣亜目）、上目の中が複数の大目に分かれているのに、そのどれにも属さない目が上目の直後に置かれていたり（例えば、始後獣上目の直後のヤルカパリドン目とフクロモグラ形目）する場合がある。これらは、それらの亜目や目が所属する目や大目などの上位の分類群が不明である場合に対する処置で、それらの群（分類不明群 *incertae sedis*）を所属するとわかる最下位の群の直後に置いたものである。

表1. McKenna and Bell (1997) の用いた上位分類群の階級に推奨してよいと思われる日本語名称

綱	Class
亜綱	Subclass
下綱	Infraclass
上団	Superlegion
団	Legion
亜団	Sublegion
下団	Infralegion
上区	Supercohort
区	Cohort
巨目	Magnorder
上目	Superorder
大目	Grandorder
中目	Mirorder
目	Order
亜目	Suborder
下目	Infraorder
小目	Parvorder

表2. McKenna and Bell (1997) の用いた目階級群以上の分類群に推奨してよいと思われる和名・学名（†は絶滅群）

哺乳綱	Class MAMMALIA
原獣亜綱 (= 単孔亜綱)	Subclass PROTOTHERIA (= MONOTREMATA): 単孔類
カモノハシ目	Order PLATYPODA: カモノハシ類
ハリモグラ目	Order TACHYGLOSSA: ハリモグラ類
獣型亜綱	Subclass THERIIFORMES
異獣下綱	Infraclass ALLOTHERIA †
多丘歯目	Order MULTITUBERCULATA †
キモロドン亜目	Suborder CIMOLODONTA †
ゴンドワナテリウム亜目	Suborder GONDWANATHERIA †
三錐歯下綱	Infraclass TRICONODONTA †
完獣下綱	Infraclass HOLOTHERIA
キューネオテリウム上団	Superlegion KUEHNEOTHERIA †
枝獣上団	Superlegion TRECHNOTHERIA
相称歯団	Legion SYMMETRODONTA †
アンフィドン目	Order AMPHIDONTOIDEA †
スパラコテリウム目	Order SPALACOTHERIA †
岐獣団	Legion CLADOTHERIA
ドリオレステス亜団	Sublegion DRYOLESTOIDEA †
ドリオレステス目	Order DRYOLESTIDA †
アンフィテリウム目	Order AMPHITHERIIDA †
最獣亜団	Sublegion ZATHERIA
ペラムス下団	Infralegion PERAMURA †
摩楔歯下団	Infralegion TRIBOSPHEENIDA
アエギアロドン上区	Supercohort AEGIALODONTIA †
獣上区	Supercohort THERIA
デルタテリディウム目	Order DELTATHEROIDEA †
アジアテリウム目	Order ASIADDELPHIA †
有袋区 (= 後獣区)	Cohort MARSUPIALIA (= METATHERIA): 有袋類
古後獣亜目	Suborder ARCHIMETATHERIA
豪州袋巨目	Magnorder AUSTRALIDELPHIA

表 2. (続き)

ミクロビオテリウム上目	Superorder MICROBIOTHERIA
始後獣上目	Superorder EOMETATHERIA
ヤルカバリドン目	Order YALKAPARIDONTIA <sup>†</sup>
フクロモグラ形目	Order NOTORYCTEMORPHIA: フクロモグラ類
フクロネコ形大目	Grandorder DASYUROMORPHIA: フクロネズミ類, フクロネコ類など
合指大目	Grandorder SYNDACTYLI
バンディクト目	Order PERAMELIA: バンディクト類
双前歯目	Order DIPROTODONTIA: ウォンバット類, カンガルー類など
米州袋巨目	Magnorder AMERIDELPHIA
オボッサム形目	Order DIDELPHIMORPHIA: オボッサム類など
少丘歯目	Order PAUCITUBERCULATA: ケノレステス類など
碎歯目	Order SPARASSODONTA <sup>†</sup>
有胎盤区 (= 真獣区)	Cohort PLACENTALIA (= EUTHERIA): 有胎盤類
マダガスカル獣目	Order BIBYMALAGASIA <sup>†</sup>
異節巨目	Magnorder XENARTHRA: 貧歯類
被甲目	Order CINGULATA: アルマジロなど
有毛目	Order PILOSA: アリクイとナマケモノ
虫舌垂目	Suborder VERMILINGUA
食葉垂目	Suborder PHYLLOPHAGA
ミロドン下目	Infraorder MYLODONTA <sup>†</sup>
メガテリウム下目	Infraorder MEGATHERIA
上獣巨目	Magnorder EPITHERIA
レプティクティス上目	Superorder LEPTICTIDA <sup>†</sup>
頭獣上目	Superorder PREPTOTHERIA
アナガレ大目	Grandorder ANAGALIDA
ハネジネズミ中目	Mirorder MACROSCELIDEA: ハネジネズミ類
重歯中目	Mirorder DUPLICIDENTATA
ミモトナ目	Order MIMOTONIDA <sup>†</sup>
兎形目	Order LAGOMORPHA: ナキウサギ類とウサギ類
単歯中目	Mirorder SIMPLICIDENTATA
混歯目	Order MIXODONTIA <sup>†</sup>
齧歯目	Order RODENTIA: 齧歯類
リス形垂目	Suborder SCIUROMORPHA
テリドミス形下目	Infraorder THERIDOMYOMORPHA
リス下目	Infraorder SCIURIDA
ビーバー形下目	Infraorder CASTORIMORPHA
ネズミ形垂目	Suborder MYOMORPHA
鼠歯下目	Infraorder MYODONTA
ヤマネ形下目	Infraorder GLIRIMORPHA
ホリネズミ形下目	Infraorder GEOMORPHA
ウロコオリス形垂目	Suborder ANOMALUROMORPHA
スキウラプス垂目	Suborder SCIURAVIDA
ヤマアラシ顎垂目	Suborder HYSTRICOGNATHA
ヤマアラシ顎下目	Infraorder HYSTRICOGNATHI
デバネズミ小目	Parvorder BATHYERGOMORPHI
テンジクネズミ小目	Parvorder CAVIIDA
広獣大目	Grandorder FERAE
キモレステス目	Order CIMOLESTA
ディデルフォドゥス垂目	Suborder DIDELPHODONTA <sup>†</sup>

表2. (続き)

幻獣亜目	Suborder APATOTHERIA†
紐歯亜目	Suborder TAENIODONTA†
裂歯亜目	Suborder TILLODONTA†
パントレステス亜目	Suborder PANTOLESTA†
汎歯亜目	Suborder PANTODONTA†
鱗甲亜目*	Suborder PHOLIDOTA: センザンコウ類など
エルナノドン亜目	Suborder ERNANODONTA†
肉歯目	Order CREODONTA†
食肉目	Order CARNIVORA: 食肉類
ネコ型亜目	Suborder FELIFORMIA
イヌ型亜目	Suborder CANIFORMIA
イヌ下目	Infraorder CYNIDEA
クマ下目	Infraorder ARCTOIDEA
クマ小目	Parvorder URSIDA
イタチ小目	Parvorder MUSTELIDA
無盲腸大目 (= 食虫大目)	Grandorder LIPOTYPHILA (= INSECTIVORA): 食虫類
キンモグラ目	Order CHRYSOCHLORIDEA: キンモグラ類
ハリネズミ形目	Order ERINACEOMORPHA: ハリネズミ類, モグラ類など
トガリネズミ形目	Order SORICOMORPHA: トガリネズミ類, テンレック類など
主獣大目	Grandorder ARCHONTA
翼手目	Order CHIROPTERA: コウモリ類
大翼手亜目	Suborder MEGACHIROPTERA
小翼手亜目	Suborder MICROCHIROPTERA
陰翼手下目	Infraorder YINCHIROPTERA
陽翼手下目	Infraorder YANGOCHIROPTERA
霊長目	Order PRIMATES: 霊長類
皮翼亜目	Suborder DERMOPTERA: ヒヨケザル類など
真霊長亜目	Suborder EUPRIMATES: キツネザル類, キヌザル類, サル類, 類人猿など
曲鼻下目	Infraorder STREPSIRRHINI
直鼻下目	Infraorder HAPLORHINI
メガネザル型小目	Parvorder TARSIFORMES
真猿小目	Parvorder ANTHROPOIDEA
登木目	Order SCANDENTIA: ツバイ類
有蹄大目	Grandorder UNGULATA: 有蹄類
管歯目	Order TUBULIDENTATA: ツチブタ類
恐角目	Order DINOCERATA†
上アルクトキオン中目	Mirorder EPARCTOCYONA
前肉歯目	Order PROCREODI†
顆節目	Order CONDYLLARTHRA†
アルクトスティロプス目	Order ARCTOSTYLOPIDA†
類鯨目	Order CETE
無肉歯亜目	Suborder ACREODI†
鯨亜目	Suborder CETACEA: クジラ類
古鯨下目	Infraorder ARCHAEOCETI†
正鯨下目	Infraorder AUTOCETA
ヒゲクジラ小目	Parvorder MYSTICETI
ハクジラ小目	Parvorder ODONTOCETI
偶蹄目	Order ARTIODACTYLA: ブタ類, ラクダ類, シカ類, キリン類, ウシ類など

\* 従来の表現では「有鱗亜目」となるが、爬虫類に同様の名称があり、区別のためこの名称を用いる。

表 2. (続き)

猪型亜目	Suborder SUIFORMES
核脚亜目	Suborder TYLOPODA
反芻亜目	Suborder RUMINANTIA
午蹄中目	Mirorder MERIDIUNGULATA <sup>†</sup>
滑距目	Order LITOPTERNA <sup>†</sup>
南蹄目	Order NOTOUNGULATA <sup>†</sup>
南祖亜目	Suborder NOTIOPROGONIA <sup>†</sup>
トクソドン亜目	Suborder TOXODONTA <sup>†</sup>
ティボテリウム亜目	Suborder TYPOTHERIA <sup>†</sup>
ヘゲテリウム亜目	Suborder HEGETOTHERIA <sup>†</sup>
雷獣目	Order ASTRAPOTHERIA <sup>†</sup>
異蹄目	Order XENUNGULATA <sup>†</sup>
火獣目	Order PYROTHERIA <sup>†</sup>
高蹄中目	Mirorder ALTUNGULATA
奇蹄目	Order PERRISODACTYLA
ウマ形亜目	Suborder HIPPO MORPHA : ウマ類
有角亜目	Suborder CERATOMORPHA
月獣下目	Infraorder SELENIDA
バク形下目	Infraorder TAPIROMORPHA : サイ類, バク類
天獣目	Order URANOTHERIA
イワダヌキ亜目	Suborder HYRACOIDEA : イワダヌキ類
重脚亜目	Suborder EMBRITHOPODA <sup>†</sup>
テチス獣亜目	Suborder TETHYTHERIA
カイギウ下目	Infraorder SIRENIA : ジュゴン類, マナティー類
壯獣下目	Infraorder BEHEMOTA
束柱小目	Parvorder DESMOSTYLLIA <sup>†</sup>
長鼻小目	Parvorder PROBOSCIDEA : マストドン類, ソウ類 など

### 選定にあたっての基本的な考え方

日本語名称の選定については、上述の青木(1994)や田隅(2000)などが指摘する文部省式カタカナ目名の問題点を考慮して、以下の3つの基準を設けた。それぞれに実例や例外を含めて説明する。

1) 分類群名、階級名ともに従来からの呼称およびラテン語名称の原義をできるだけ尊重した。これは多くの場合、中国語での表記ともほぼ一致する(小森, 1974; 大泰司, 2000; 田隅, 2000)。ただし、適切な訳語がない場合はある程度原義と無関係の語を用いた。例えば Mirorder は「中目」としたが、Mir- は本来“Super”に近い意味の接頭語であり、Superorder との区別と、隣接する他の階級名との関係のためこの訳語を用いた。また、Grandorder FERAE は「広獣大目」としたが、「広獣」は外見上大きく異なる様々な動物を含むことから用いた名称である。FERAE は本来「野生動物ども」といった意味の言葉であり、従来の分類では「猛獣」と訳される

ことが多かったが(例えば、今泉, 1998)、この大目は大型肉食動物などの一般的な猛獣の概念とは一致しないため、この訳語は用いなかった。

2) 文部省式カタカナ目名のような恣意的に選んだ動物名はできるだけ用いなかったが、分類群の学名自体が特定の動物名に基づく場合は1)。によりその和名をカタカナで用いた(例。カモノハシ目)。ただし、鯨目(げいもく、ここでは鯨亜目)のように漢字表記の音読化が定着しているものはそれを優先した。また、動物名の後に語尾として -morpha または -formes がつけられている場合、前者には「形」を、後者には「型」をあてて区別した。これにより、「ウサギ目」のように「類」と表現した場合どの階級なのか区別できなくなるような分類群名がある程度避けられた。青木(2003)は昆虫を例に亜目以上の分類群名を漢字表記で揃えたいとしているが、今回用いた体系では極めて煩雑かつ難解なものになり、不可能であった。

特に絶滅動物のみからなる高次分類群の学名は、それ

に含まれる属の学名に基づいていることが多いので、その場合は属の和名を目階級群の和名に用いた。ただし、有名な古生物 *Desmostylus* に基づく DESMOSTYLIA は従来この属名の原義から「束柱目」と訳されてきており、この目名の知名度が高いことを考慮して、ここでは Parvorder DESMOSTYLIA の訳語をデスモスチルス小目とはせず、束柱小目とした。三錐歯下綱 (Infraclass TRICONODONTA) についても同様である。これに類する例として、Order DELTATHEROIDA は有名な古生物デルタテリディウム *Deltatheridium* などの数属からなり、この目学名の語源はそのうちの一つ、*Deltatheroides* であろうと考えられるが、この属名そのものが「デルタテリディウムもどき」の意であり、目の和名をデルタテ

ロイデス目とするとデルタテリディウムは別目との誤解を招きかねないことから、デルタテリディウム目とした。

3) 地名は豪州、米州など漢字化して用いた (例・豪州袋目)。ただし、マダガスカル (漢字表記では「麻田糟軽」または「馬達加斯加」) 島のみから化石の見ついている絶滅目、BIBYMALAGASIA は、biby- が現地語で beast の意の接頭語、malagasia は「マダガスカルの」の意であることから (McKenna 博士私信)、「麻島獣目」または「馬島獣目」などとなるところであるが、極めて難解になるのでマダガスカル獣目とした。

表3. 文部省 (1988) における哺乳綱の高次分類体系に推奨してよいと思われる和名 (†は絶滅群)

哺乳綱 Class MAMMALIA	鯨目 Order CETACEA
暁獣亜綱 Subclass EOTHERIA †	古鯨亜目 Suborder ARCHAEOCETI †
梁歯目 Order DOCODONTA †	ヒゲクジラ亜目 Suborder MYSTICETI
三錐歯目 Order TRICONODONTA †	ハクジラ亜目 Suborder ODONTOCETI
原獣亜綱 Subclass PROTOTHERIA	カイクウ目 Order SIRENIA
単孔目 Order MONOTREMATA	束柱目 Order DESMOSTYLIA †
異獣亜綱 Subclass ALLOTHERIA †	顆節目 Order CONDYLARTHRA †
多丘歯目 Order MULTITUBERCULATA †	鈍脚目 Order AMBLYPODA †
獣亜綱 Subclass THERIA	南蹄目 Order NOTOUNGULATA †
真汎獣目 Order EUPANTOTHERIA †	雷獣目 Order ASTRAPOTHERIA †
相称歯目 Order SYMMETRODONTA †	滑距目 Order LITOPTERNA †
有袋目 Order MARSUPIALIA	モエリテリウム目 Order MOERITHEROIDEA †
貧歯目 Order EDENTATA	長鼻目 Order PROBOSCIDEA
パレアノドン亜目 Suborder PALAEANODONTA †	デインテリウム亜目 Suborder DEINOTHERIOIDEA †
異節亜目 Order XENARTHRA	ゾウ亜目 Suborder ELEPHANTOIDEA
食虫目 Order INSECTIVORA	奇蹄目 Order PERRISODACTYLA
原真獣亜目 Suborder PROTEUTHERIA †	ウマ形亜目 Suborder HIPPMORPHA
単波歯亜目 Suborder ZALAMBODONTA	角形亜目 Suborder CERATOMORPHA
無盲腸亜目 Suborder LIPOTYPHILA	鉤脚亜目 Suborder ANCYLOPODA †
登木目 Order SCANDENTIA	イワダヌキ目 Order HYRACOIDEA
皮翼目 Order DERMOPTERA	重脚目 Order EMBRITHOPODA †
紐歯目 Order TAENIODONTIA †	管歯目 Order TUBULIDENTATA
裂歯目 Order TILLODONTIA †	偶蹄目 Order ARTIODACTYLA
翼手目 Order CHIROPTERA	猪型亜目 Suborder SUIFORMES
大翼手亜目 Suborder MEGACHIROPTERA	核脚亜目 Suborder TYLOPODA
小翼手亜目 Suborder MICROCHIROPTERA	真反芻亜目 Suborder PECORA
霊長目 Order PRIMATES	鱗甲目* Order PHOLIDOTA
プレシアダピス亜目 Suborder PLESIADAPOIDEA †	齧歯目 Order RODENTIA
キツネザル亜目 Suborder LEMUROIDEA	リス形亜目 Suborder SCIUROMORPHA
メガネザル亜目 Suborder TARSIOIDEA	テンジクネズミ形亜目 Suborder CAVIOMORPHA
真猿亜目 Suborder ANTHROPOIDEA	ネズミ形亜目 Suborder MYOMORPHA
肉歯目 Order CREODONTA †	兎形目 Order LAGOMORPHA
食肉目 Order CARNIVORA	ハネジネズミ目 Order MACROSCELIDEA
鱗脚目 Order PINNIDEDIA	

\* 表2 欄外の注釈参照

## 他の分類体系への適用にあたっての注意

McKenna and Bell (1997) は、種間の共有派生形質の分布のみによって系統関係を推定し、機械的にリンネ式分類体系に当てはめていく分岐分類法に基づいているので、従来の分類体系とは分類群と分類階級の対応が異なる場合が多い。そのため、他の分類体系に表2の例示を適用するにあたっては注意が必要である。例えば、Order CETE および Suborder CETACEA の和名は、ここではそれぞれ類鯨目、鯨亜目となっているが、その趣旨は CETE に「類鯨」、CETACEA に「鯨」の語を対応させようというものである。CETACEA は多くの分類体系では目として扱われているので、そうした分類体系を採用する場合この分類群の和名は従来通り「鯨目」となって差し支えなく、従来鯨目とされてきた動物群と一致するので、それが正しい。表2の類鯨目は無肉歯亜目 (Suborder ACREODI) を含むため、従来の鯨目よりも広い分類群である。

また、表2に見られない高次分類群がまったくないわけではない。例えば、de Jong (1998) は分子系統学的に鯨目と偶蹄目が姉妹群であることを示して新目 Cetartiodactyla を提唱し、Gingerich *et al.* (2001), Madsen *et al.* (2001), Murphy *et al.* (2001a, b), Thewissen *et al.* (2001) にも支持されている (Milinkovitch *et al.* (1993), 遠藤 (2002, 2003) も参照)。この目を認めた場合、無肉歯亜目と鯨亜目との直接的な類縁関係は否定され、無肉歯亜目は新目に含まれなくなるので、この新目の和名は「類鯨偶蹄目」ではなく「鯨偶蹄目」となる。このように、どのような動物が含まれるかに着目し、上記の基本的な考え方に基づけば、今後 McKenna and Bell (1997) に見られない他の新たな目が提案されても、おおむね対処できると考えられる。分類群間の系統関係についても、アフリカ大陸産の食虫類と有蹄類の一部同士を結合させた Afrotheria のような従来の体系や表2とは大きく異なった高次分類群が提唱されているが (Stanhope *et al.*, 1998; Murphy *et al.* (2001b), 遠藤 (2002, 2003), 子安 (2003) も参照)、同様に対処可能であろう。実用的な観点から、文部省 (1988) で採用されている分類体系に対して今回の基準と例示に基づいて対応させてよいと思われる和名を表3に示す。用いる体系によっては、遠藤・佐々木 (2001) の和名も参考になるであろう。

## 謝 辞

目名問題検討作業部会は、遠藤秀紀、子安和弘、田隅

本生、富田幸光、本川雅治、横畑泰志の6名によって構成されている。作業の過程で京都大学大学院人間・環境学研究科 松井正文、同・大学院理学研究科 足田努、香川大学教育学部 金子之史および American Museum of Natural History Malcolm C. McKenna の各氏にご助言をいただいた。以上の方々に厚くお礼申し上げる。

## 引用文献

- 青木淳一．1994．動物分類名の表記に関する論議 食肉目か、ネコ目か．動分学誌, 51: 69-72．
- 青木淳一．2003．動物の目名の表記に関する論議 カナ表記か、漢字表記か．哺乳類科学, 43: 67-68．
- Colbert, E. H., M. Morales and E. C. Minkoff．2001．Colbert's evolution of the vertebrates. —A history of the backboneed animals through time. Fifth edition. Wiley-Liss Inc., New York, 560 pp.
- de Jong, W. W．1998．Molecules remodel the mammalian tree. Trends Ecol. Evol., 13: 270-275．
- 遠藤秀紀．2002．哺乳類の進化．東京大学出版会，東京，383 pp．
- 遠藤秀紀．2003．有蹄獣の戸惑い．哺乳類科学, 43: 73-74．
- 遠藤秀紀・佐々木基樹．2001．哺乳類分類における高次群の和名について．野生動物医誌, 6: 45-53．
- Gingerich, P. D., M. ul Haq, I. S. Zalmout, I. H. Khan and M. S. Malkani．2001．Origin of whales from early artiodactyls: Hands and feet of Eocene Protocetidae from Pakistan. Science, 293: 2239-2242．
- 今泉吉典．1998．哺乳動物進化論 哺乳類の種と種分化．ニュートンプレス，東京，341 pp．
- 伊東員義．2003．哺乳類の目名と動物園．哺乳類科学, 43: 68-71．
- 金子之史．1998．哺乳類の生物学 分類．東京大学出版会，東京，148 pp．
- 小森 厚．1974．中国産哺乳動物の名称について．動水誌, 17: 35-39．
- 子安和弘．2003．分類のくずかご「食虫類」の分類をめぐる．哺乳類科学, 43: 71-73．
- Madsen, O., M. Scally, C. J. Douady, D. J. Kao, R. W. DeBry, R. Adkins, H. M. Amrine, M. J. Stanhope, W. W. de Jong and M. S. Springer．2001．Parallel adaptive radiations in two major clades of placental mammals. Nature, 409: 610-614．
- McKenna, M. C. and S. K. Bell．1997．Classification of Mammals above the Species Level. Columbia University Press, New York, 631 pp．
- Milinkovitch, M. C., G. Orti and A. Meyer．1993．Revised phylogeny of whales suggested by mitochondrial ribosomal DNA sequences. Nature, 361: 346-348．
- 文部省 (編)．1988．学術用語集 動物学編 (増訂版), 丸善，東京，1122 pp．
- Murphy, W. J., E. Eizirik, W. E. Johnson, Y. P. Zhang, O. A. Ryder and S. J. O'Brien．2001a．Molecular phylogenetics and the origins of placental mammals. Nature, 409: 614-618．

- Murphy, W. J., E. Eizirik, S. J. O'Brien, O. Madsen, M. Scally, C. J. Douady, E. Teeling, O. A. Ryder, M. J. Stanhope, W. W. de Jong and M. S. Springer . 2001b . Resolution of the early placental mammal radiation using Bayesian phylogenetics. *Science*, 294: 2348-2351 .
- Novacek, M. J . 1992 . Mammalian phylogeny: Shaking the tree. *Nature*, 356: 121-125 .
- 大泰司紀之 . 2000 . 日本列島の哺乳類相の特徴, および哺乳類の目名の混乱について . 日本動物分類学関連学会連合ニュースレター , 1: 11-13 .
- Simpson, G. G . 1945. The principles of classification and a classification of mammals. *Bull. Am. Mus. Nat. Hist.*, 85: 1-350 .
- Stanhope, M. J., V. G. Waddell, O. Madsen, W. de Jong, S. B. Hedges, G. C. Cleven, D. Kao and M. S. Springer . 1998 . Molecular evidence for multiple origins of Insectivora and for a new order of endemic African insectivore mammals. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 95: 9967-9972 .
- 田隅本生 . 2000 . 哺乳類の日本語分類群名, 特に目名の取扱いについて 文部省の“目安”にどう対処するか . 哺乳類科学, 40: 83-99 .
- Thewissen, J. G. M., E. M. Williams, L. J. Roe and S. T. Hussain . 2001 . Skeletons of terrestrial cetaceans and the relationship of whales to artiodactyls. *Nature*, 413: 277-281 .
- 富田幸光 . 2003 . 絶滅哺乳類の目レベル分類の最近の話題, 特に分岐分類学の適用問題について . 哺乳類科学, 43: 74-76 .
- 横畑泰志 . 2000 . 「目名」は「名目」に過ぎないか? 哺乳類の目名表記の問題を考える . 日本哺乳類学会2000年度大会プログラム・講演要旨集 . P. 30, 日本哺乳類学会2000年大会委員会, 大阪市 .
- 横畑泰志 . 2001 . 哺乳類の目名表記問題と最近の上位分類の動向について . 日本動物分類学関連学会連合ニュースレター , 2: 10-12 .
- 横畑泰志 . 2003 . 「哺乳類の目と目名」企画趣旨と報告 . 哺乳類科学, 43: 67 .

---

Yasushi Yokohata : A proposal of the Japanese names of mamalian higher taxa and their ranks

受理日 : 2003年10月30日

著者 : 日本哺乳類学会種名・標本検討委員会 目名問題検討作業部会 ( 部会長 : 横畑泰志 )